

西表島、鳩間島及び新城島における 動植物の方言名について

石垣 金星¹・嵩原 建二²・花城 良廣³・加治工真市⁴

はじめに

自然に関する方言名を収集することは、消失の危機にある貴重な民俗文化財としての方言を記録し、残していくことと同時に、古来より自然と人間の関わりや人が自然をどう認識していたのかを理解する一つの方法でもある。時には今日では見ることができないが、より人為的改変の少ない自然状態で生息していたであろう動植物が識別されていることもある。例えば、尚（1918）によって報告された琉球産鳥類方言名の中には、現在では佐渡島にごく少数が保護飼育されているトキ *Nipponia nippon* が、琉球産鳥類として「コーナー」と言う方言名で紹介されている。

沖縄県内では天野（1975・1979・1980）などによって、奄美諸島以南の琉球列島における植物方言名が精力的に収集され、特に天野（1979）は約900種におよぶ植物の方言名を奄美諸島から八重山諸島までの各島で採録している。また、天野（1981）は宮古・八重山諸島の御嶽林調査の中で、西表島（星立）を含む先島諸島の植物方言名を採録し、山田（1992）は、かつての網取集落における生活に関わりの深い植物方言名について記録している。

一方、動物についての方言名は、古くは田代（1889）や黒岩（1893）によって若干の記録があり、また前述した尚（1918）によって、琉球産鳥類の方言名43種が採録されている。近年では当山（1883.1984.1987.1989）などによって沖縄島やその周辺離島から採集され、鳥類では沖縄野鳥研究会編（1986・1993）などによって若干の記述が見られる。また、言語学的手法を用いた方言名の採録は、宮古諸島で当山ら（1980）による両生爬虫類の方言名採録があり、他にいらぶの自然編集委員会編（1991）などが見られる。さらに、沖縄島では名護博物館編（1990）の鳥類方言や当山ら（1997）などにより動植物方言名が採録されている。

西表島を含む八重山諸島では、黒島（1972）、八重山野鳥の会編（1983）などにより鳥類方言名が採録されているが、その他に宮城（1972）、安間（1986）、西表島エコツー

¹ 西表島をほりおこす会・² 沖縄県立博物館・³ 海洋博記念公園都市緑化植物園・⁴ 沖縄県立芸術大学)

リズム協会（1994）、山田（1992）などに断片的な動物方言名の記録が見られる。しかしながら、いずれも音声表記を伴なっておらず、言語学的な手法を採用した音声表記による方言の採録としては、久野（1988）によって、西表島祖納の方言が調査され、その一部に動植物の方言名が採録されている。また、加治工（1997）は竹富方言の基礎語彙としての観点から動物方言を採録し、嵩原ら（1998）は波照間島における鳥類方言名を採録している。さらに鳩間島においては、加治工（1990）によって住関係の語彙が採録されているが、動植物の方言名については少なく、野鳥の方言名として八重山野鳥の会編（1983）により17種の方言名（かな表記）が知られているにすぎないようと思える。

今回西表島及びその周辺離島における動植物の方言名の採録を試み、十分ではないがこれまでで最も多いと思われる方言名の収集を行った。また、一部については音声表記を行い、方言名を記録することと同時に、人と自然の関わり等についても若干の解説を加えた。本報告が西表島及びその周辺地域における動植物の方言名と、自然と人間の関わりを理解する若干の資料になれば幸いである。

1. 調査地概要

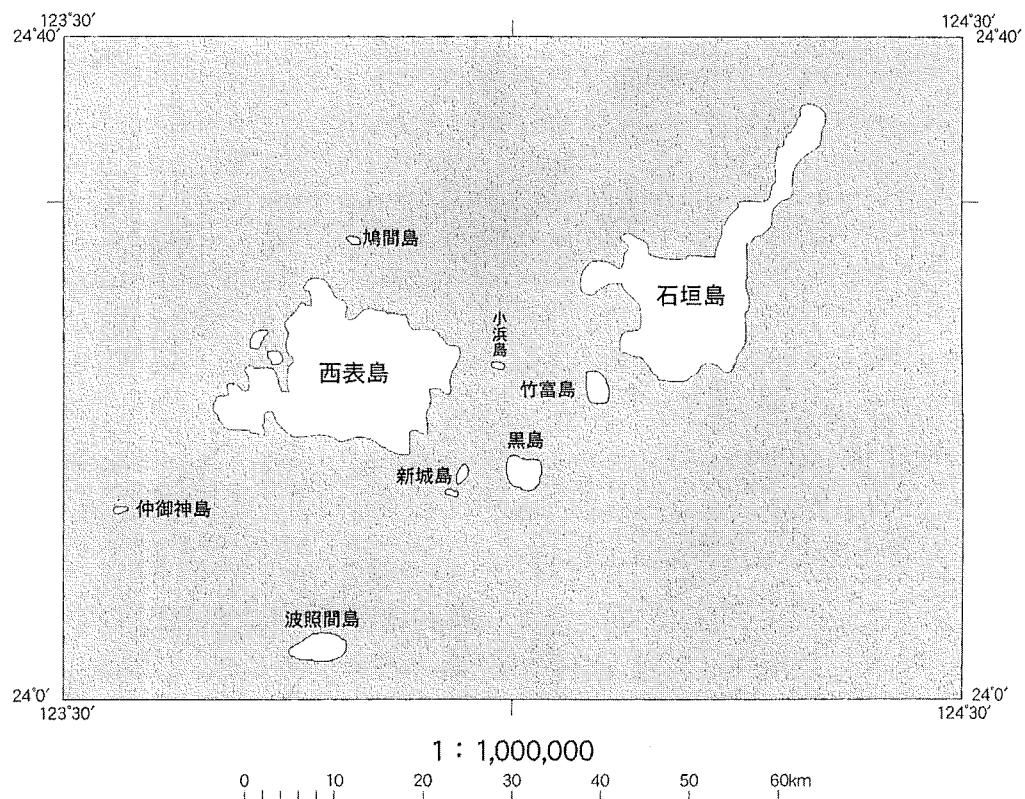
（1）西表島

西表島は図1に示したように、北緯24度15分から26分、東経123度39分から57分に位置している。降雨量は梅雨期と台風時に集中し、年間の降雨量は2000mmを越えている。

同島は八重山諸島最大の島で、面積284.4km²、周囲は約130kmにもなり、県下でも沖縄島に次ぐ大きさである。人口は777世帯1887人（平成7年度国勢調査）で、農業を基盤とする産業構造である。特に東部では土地改良事業による農耕地の整備がすすみ、作物は主としてサトウキビ栽培が行われている。一方、北西部ではパインナップル、西部では水稻栽培がその主な作物となっている。また、島の北東部や西部、南部の一部には肉用牛を生産する大規模な牧場も見られる。

集落は東部に南から豊原、大原、大富、古見の4集落、西部には陸路でたどれる船浦、上原、住吉、浦内、祖納、星立、白浜の集落がある。また、海路で渡る舟浮の集落が最も南に位置するが、その南西方向にある廃村跡の網取には東海大学の研究施設が置かれている。

森林地域は基本的にはイタジイやウラジロガシなど中心とする亜熱帯常緑広葉樹林が、その大部分を占め、御座岳（420m）や古見岳（469m）、波照間森（447m）、南風岸岳（425m）などの内陸丘陵地域を中心に広がっている。その山地域からは、東部に仲間川、前良川、後良川などの河川が、西部では浦内川や仲良川、クイラ川などの河川が流れ出るが、すべての河川護岸が人工構築物で改変されていない自然河川である。その河川河口付近には、両岸にヒルギ類を中心とした国内では規模の大きいマングローブ林がみられる。



位 置 図



図 1. 八重山諸島の位置と調査地(○)
(石垣島・西表島)

(2) 新城(パナリ)島

図1に示したように、西表島南西の海上23kmに位置し、広さ1.76km²の上地島と広さ1.58km²の下地島の2島からなる。西表島大原からは舟で20分ほどかかる島で、平成7年度の国勢調査では、上地島は人口は2世帯3人、下地島は6世帯6人で、現在は島全体が肉用牛の牧場となっている。なお平成12年11月現在では上地島5人、下地島で1人と減少している。

かつて昭和初期には両島とも人口約500人を有する島で、西表島(大原)へ渡って日常的な米の耕作が行われていたが、昭和13年に沖縄県の移住計画に基づき西表島大原へ強制疎開させられため大部分が移住してきている。その結果、戦後急速に過疎化の一途をたどり、昭和33年(1958年)には下地島で4戸、上地島に26戸が残っているのみであったとされる。それに反して、当時の大原集落82戸のうちその3分2にあたる57戸が、新城島からの移住者で占められていた(本田 1962)。

(3) 鳩間島

図1に示したように、西表島船浦の北方海上5kmに位置し、広さ0.96km²の小島で船浦から舟で約20分ほどかかる。平成7年度の国勢調査では、人口は28世帯45人で、過疎化が著しく、半農半漁の島である。

集落は島の南側に形成され、口承によると船浦湾奥の髭川村から6人が移住し、村立てがされたとされ、その創建はかなり古いとされる。琉球王府当時、島民は貢納するため、西表島に渡り、米作を行った(沖縄大百科刊行事務局編 1983)。

2. 調査概要及び調査方法

本調査は著者の一人である石垣によって、1972年から1995年にかけて西表島祖系内、古見、新城島における自然物に関する方言名が採録され、これを基本に、今回の沖縄県立博物館西表島総合調査の一環として、花城によって鳩間島の方言名が採集され、これに動植物の生息概要と関連してまとめ直したものである。特に西表島西部の祖納集落における方言については音声を録音し、これを著者の一人である加治工が言語学的な手法を用いて音声表記し、民俗学的な資料ともなるように配慮した。

西表(祖納・星立)方言の採録は1972年から開始し、古老からの聞き取りを行うのと同時に、石垣が個々の方言名を音声化(発音)し録音した。また、古見の方言は、古見集落在住の富里サカイ氏(明治44年生当時85歳)から直接聞き取りしたものである。さらに新城(パナリ)島の方言は、1995年に東京在住の民俗研究家海津ゆりえ氏によって、西大舛高壱氏(大正9年生当時75歳:新城島出身西表島大原在住)から直接聞き取りを

行ったものである。

鳩間島の方言に方言については、著者の一人である花城によって、2001年3月に実父の花城広助氏（鳩間島出身：名護市宇茂佐在住 大正15年生76歳）から直接聞き取りし、採録したものである。

なお、哺乳類の学名は阿部（1994）、鳥類の学名は日本鳥学会（2000）にしたがった。

3. 調査結果の考察

表1に示したように、西表島及びその周辺離島である新城（パナリ）島と鳩間島に生息分布する植物について164個（総称的な呼称や作物、野菜、不明種等を含む）、哺乳類について11個（家畜や海産哺乳類等含む）、鳥類について51個（一般的な呼称や複数名称、卵、不明種等を含む）、爬虫類について15個（一般的な呼称や不明種含む）、両生類について2個、魚類について4個、昆虫類・多足類・その他の小動物について13個（昆虫の幼虫含む）、甲殻類について16個（一般的な呼称含む）、貝類について9個（一般的な呼称や不明種含む）藻類1個の合計286個におよぶ方言による呼称が得られた。その中でそれぞれ新城（パナリ）島から103個、西表島吉見から159個、西表島祖納（星立含む）から338個、鳩間島から151個の4地域総計751個におよぶ動植物に関する方言名が得られた。その方言名で識別された種の同定も可能な限り行った。また、特に祖納集落における方言名については音声表記も行い、その言語学的な特徴についても後述するように若干の考察を行った。

以下にそれぞれの生物群に分け、その概要や特徴的なことと人との関わりなどについてまとめた。

1) 動植物の方言について

(1) 植物方言名について

天野鉄夫著（1979）「琉球列島・植物方言集」をみると、鳩間島や新城島の植物方言名は他の島に比べ意外に多いことが分かる。島に自生していない植物についての方言が多く、島民の生活範囲が植物の多い西表島まで及んでいたこと示している。

植物の方言名は、和名と同様、植物の特徴を表す語彙で綴られているが、一般に生活に係わった名が当てられていることが多い。則ち、植物方言名を聞くだけその植物の特徴や生活との係わりが分かる。方言名は単に紛らわしい植物を識別のするためにだけではなく、先人達が経験した衣食住に関する情報でもある。

茅屋を葺きあげる時、鳩間島では屋根のユチリにはユチルダキを使うが、このユチルダキはリュウキュウチク、タイミンチク、ヤダケの複数の種類を示している。則ちユチリに

はこの3種が適しているのである。屋根にユチルタキを敷きその上に茅を載せた後、細長い茎を上から当て蔓縄で固定する。この茅を押さえる細長い茎の植物を総称してティーブクと言っている。中でも、直径が2~3センチで細く、3~4メートルの長さに成長し弾力性のあるダスカ（シマミサオノキ）が最もいいと言われている。細長く成長すること、弾力性が強いこと、長持ちすることなどのシマミサオノキのこの情報は、正に方言から得られるのである。

植物で各器官について各々の方言名もある。最も生活に密着した植物に多く見られるが、その一つにアダンがある。鳩間島ではアダンのことをアダンブラという。雌株にはミーアダンブラ、雄株にはビキアダンブラである。おそらく果実（食用）が着くか否かを区別する必要があったからであろう。次に気根をアダナシといい、裂いて乾燥させ縄を編むなど、重要な纖維植物である。纖維の採れる植物は他にもあるが、アダンの気根から採れる纖維は強靱であるため広く利用されていた。さらに、同じくアダンについてカニアダンブラ（鳩間島）、カニアダム（祖納）という方言名がある。これは特別な種類のアダンを言っているのではなく、カニの足のように茎の外郭が堅くなったアダンのことである。茎は刀が断たないほど堅く、腐れにくいので、湿度の高い場所で建てる田小屋の柱に用いるという。これは稻作が盛んに行われた所だからこそ生まれた方言名であろう。

次に、食感を示した方言名に、ンガダビ（新城島）、ンガダキ（鳩間島、古見）、イガダイ（祖納）と呼び、ホウライチクのことを示している。語彙のンガ、イガは「苦い」は、即ち苦いタケのことであり、食すると苦くて食えない竹であることを示している。しかしながらンガタキとい名には、食味をすることで、ざるを編むための固体を選別することができるというのである。

次に危険を表す方言名にミーフクラギ（鳩間島、祖納）、ミーシップキ（祖納）という植物がある。この植物はオキナワキヨウチクトウ（近年ミーフクラギが和名となっている）のことで、その果実や茎葉から出る樹液を目に入れると腫れるとことを示している。ビロサンパ（鳩間島）、カサヌパ（祖納）、ビールサーヌパ（古見）は各地で微妙に異なるが、ビロ、ビールあるいはカサは「かゆい」の意があり、葉から出る液を体につけるとかゆくなることを示している。

各島に共通して用いられている薬草の方言名はほとんど同じ呼び名である。例えば、イリオモテアザミ（根を煎じて薬用とする）は各地ともハマグンボウと言い、また、俗にチヨウメイグサと呼ばれているボタンボウフは各地ともサクナと呼んでいる。同じくカンゾウにはパンスウ、パンスー、トウガラシにはクースと言っている。

次に、用途を意味する方言名には、ミーカンガンキ（鳩間島）、ガンキヨキ（祖納）があり、直訳すると「めがねの木」であるが、水中メガネが作れる木のことである。その植

物は海浜地に自生するモンパノキのことで、その材は軽く緻密であるため水深く潜っても水漏れしないといわれる。同じく、カビキ（鳩間島、祖納）があり、紙の材料となる木のことと、海岸の岩礁地に生えているアオガシのことを示している。アオガシオビは強靭で緻密な纖維があることから上質の紙ができる。

その他、ハスノハギリをビンドロマーキ（鳩間島）、ブーブーキ（祖納）、ビビキ（古見）といい、これら音声からハスノハギリの鈴状の種子を示し、種類を子供たちが振って音を鳴らして遊ぶことからこの名が付いたのであろう。ハマオモトをシダフカ（鳩間島）、サティフカ（祖納、古見）、フクル（祖納）といい、語尾の「フカ」は風船あるいは袋のことを示している。ハマオモトの茎を巻いている薄い膜を筒状にとり両端を縛って風船状にて鞠代わりにした。

以上のように、植物の方言名は、それぞれ島民の生活に密着した名前であり、また生活を営むためには知っているなければならない名前もある。したがって、重要な植物には必ず方言名があり、あまり生活に係わりのない植物は身近にあっても方言名が無いものが多い。方言名を調査することによって植物の意外な特性を知ることができる。また、これら植物方言名に見られる情報は、先人達の多くの経験を積み重ねたものであり、それを失うことは植物そのものを失うことに等しい。方言名を知る人達が時間とともに少なくなっている今、早急に継続して調査を実施する必要がある。

（2）哺乳類の方言名

内田（1964）によると、西表島ではオオコウモリやカグラコウモリなど5種の哺乳類が生息し、3種の未記載種があることを指摘している。また、安間（1979）は家畜やジャコウネズミ、クマネズミなど自然帰化種と考えられる2種を含め11種を報告しているが、西表エコツーリズム協会編（1994）によると、家畜やクマネズミ、ドブネズミなどの自然帰化種を除き、哺乳類が7種が生息しているとしている。表2にこれまでの記録を総合して示すと11種の野生陸産哺乳類と2種の海産哺乳類が西表島およびその周辺地域で見られるものと思われる。

前述したように今回家畜や海産哺乳類も含め11種の方言名が採録されたが、この中にはイリオモテヤマネコ以外にオオヤマネコの存在が識別され、「ヤマピッカリヤー（新城島）」、「クンズマヤー（祖納）」、「トウトウラー（古見）」と各地域で呼称されている。したがって、イリオモテヤマネコ以外に野生ネコの存在が識別されていて興味深い点がある。しかしながら、安間（1976, 1990）はその存在を否定しており、今日でもその存在を証明する資料は得られていない。

哺乳類の中では特に生活との関わりの深い種として「ヤマシシ（リュウキュウイノシシ）」

と「ザン（ジュゴン）」などがあげられるであろう。

カマイは山の神からの恵みとしての貴重な食料である。「カマイ」の捕獲には、古来からイヌを使って追い出し槍でしとめる方法や、「チチヤマ」や「ピッタガシヤマ」と呼ばれ、イノシシの通り道に重しを仕掛け、落として押しつぶし捕獲する方法があった。今日ではワイヤーを用いたハネワナによる捕獲が主流とされる。

しかし、田植えの時にはカマイの肉は食べないようにと伝えられ、それはカマイの肉を食べると植えた稻の苗がカマイによって引き抜かれるからとされている。このようなカマイと人間の関わりが見られる。

また、農作物への被害を減らすため、18世紀の中頃から祖納では「シイ」と呼ばれる猪垣が建設された。それは村後方の山手に、集落を囲むようにテーブルサンゴや砂岩などを積み上げ高い石垣を造る工法で、現在でもほぼ完全な形で残っている。今日では土地改良区を囲う鋼鉄製のネット柵がその役割をはたしている。

「ザン」は特に新城（パナリ）島では「ザヌ」と称し、王府へ献上する不老長寿の妙薬としての上納品であり、島だけに捕獲が許された。つまり、年貢としての上納品であり、島の住民が食することはなかった。その靈を祭るザンの御嶽が島に所在し、その頭骨が祀られている。

「カスリヤーン（コキクガシラコウモリ）」は、後述するアカショウビンやコノハズク同様に神の使いとされ、人家に紛れ込むと保護し、翌朝に火の神の前に座らせ、グシ（泡盛）、花米、マス（塩）とお香を供えてお祈りしてから山に放す風習が見られる。

表2. 西表島の哺乳類（家畜・海産哺乳類含む）と方言名

種名	方言名	備考・文献等
リュウキュウイノシシ <i>Sus riukiuanus</i>	ヤマシシ	
イリオモテヤマネコ <i>Felis iriomotensis</i>	ヤママユ、ヤママヤ、ヤママヤー	
オオヤマネコ？	ヤマピッカリヤー、クンズマヤー、トウトウラー	生息状況不明
ヤエヤマオオコウモリ <i>Pteropus dasymallus yaeyamae</i>	カブリ	
ヤエヤマコキクガシラコウモリ <i>Rhinolophus cornutus perditus</i>	カスリヤン	
リュウキュウユビナガコウモリ <i>Miniopterus fuscus</i>	カスリヤン	
ヤエヤマカゲラコウモリ <i>Hipposideros turpis</i>	カスリヤン	
リュウキュウジャコウネズミ <i>Suncus murinus temminckii</i>	オイザ	
ドブネズミ <i>Rattus norvegicus</i>	オイザ	内田（1964）

(続き)

ネズミグループの一種		
<i>Rattus Group sp.</i>		内田 (1964)
ネズミの一種		
<i>Rattus sp.</i>		内田 (1964)
ナンヨウネズミグループの一種		
<i>Rattus exulans Group sp.</i>		内田 (1964)
家ネコ	マヤー	家畜
野生化した家ネコ	ビンギマヤー	家畜
イヌ	イン	家畜
ウマ	ンマ	家畜
ヤキ	ビザ	家畜
ウシ	ウシャン	家畜
ジュゴン	ザノ	海産哺乳類
イルカ	ヒートウ	海産哺乳類
人間	ピトウ	

備考：西表島ではネズミを駆除する目的でニホンイタチが入れられたが、現在定着はしていないようである。

：鳩間島（ヤギ：ピビザー ネコ：マヤ ブタ：オ イヌ：イン）

（3）鳥類

西表島における鳥類については、古くはKuroda (1925) によって標本に基づく研究があるが、近年では池原ら (1974)、池原ら (1985)、安間 (1986)、西表島エコツーリズム協会編 (1994) などの記録が見られる。一方、庄山 (1984) はこれまでの記録を総合して、西表島で記録のある鳥類を304種としているが、最近ではコライアイサやクロジョウビタキなど新たな渡り鳥の記録 (嵩原ら 2000) とリュウキュウガモの再確認記録等が見られる（時田賢一氏私信）。

前述したように西表島及びその周辺地域で鳥類の方言名は、総称や鳴き声での方言名を含み、祖納で47個、新城（パナリ）島から28個、古見から17個、鳩間から23個の合計115個が採録された。

表3に報告者や各地域ごとに比較対照して示したように、黒島 (1972) は鳥類の西表名を38種（総称を含む）、八重山野鳥の会編 (1983) では35種記録しているが、今回得られた方言名も一部重複しており、基本的にはほぼ同じである。しかしながら、一部に呼称の違いが見られ、例えばサギ類の総称を黒島 (1972) は「ササ」としているが、新城島で「サン」、祖納で「シルサヤ (ſirusa'ja)」、古見で「シスザイ」と地域により若干の違いが認められる（表2）。また、コノハズクについても黒島 (1972) では「チコウ」としているが、新城島で「ツクホウ・ミンツクグル」、祖納で「チコホー (tʃ'koho)」、古見で「チククル」とやはり地域性が見られる。ウグイスも黒島 (1972) では「パチカイ」としているが、新城島で「ムクスタ」、祖納で「イツフクラマ、パチカイ、プトウクイク

イ」などと一部共通するものがあるものの複数名が採録され興味深い。

今回の調査では、これまでに西表島及びその周辺地域で記録されていない鳥類として、祖納方言で今日では特別天然記念物で絶滅危惧種であるアホウドリの方言名が「ウブドウリヤー（?ubudurjař）」として採録され、かつてこの鳥が西表島周辺で生息していたことを伺わせる。古老の話では「ナニワン：ナカノウガン島（仲の御願島）」に生息していたと言われているが、今日ではその生息確認はなされていない。

また、国指定天然記念物で絶滅危惧種であるアカヒゲ（？）*Erithacus komadori*と思われる方言名が祖納で「フシュル」として採録されており興味深い。本種は八重山諸島産亜種のウスアカヒゲ*Erithacus komadori subrufus*とも考えられるが、最近冬季に北方からのアカヒゲ*Erithacus komadori komadori*の渡りを示唆する研究が見られ（川路・樋口 1989）、八重山諸島には冬鳥としての渡来の可能性が高い。

野鳥と人間との関わりとして、西表西部の祖納地域の民謡である「まるまほんさん」の中に、「まるまほんさん」で時をとるシラサギ類のコロニーとウ類の生態がうたわれていて、方言同様鳥類、鳥類と人間とのどかな関わりを示すものとして興味深いものがある。

また、ヤマダン（カンムリワシ）は稻作を行う西表島では、苗代や水田の「見張り番」として大切にされてきた。それは本種が英名で「Serpent Eagle」つまり、ヘビ食いワシと呼ばれるように、その餌となるカエル類、ネズミ類、ヘビ類（特にサキシマハブ）などが水田地域に多く、その稻作に有害なネズミ類と人間に害を与えるハブを捕獲してくれるために大切にされたのである。しかも、とまり木にじっととまり待ち伏せて餌を捕獲する習性のあるカンムリワシは、まるで苗代や水田の「見張り番」として写っていたのであろう。

一方、ゴッカル（アカショウビン）やチコホウ（コノハズク）などは神の使いとして認識されていたため、人家に入り込んで保護されると、翌朝に火の神前に座らせ、お供え物をし、三線（サンシン）をひいて歌を歌ってから放鳥したという。このことは、これらの鳥類が逆に不吉な鳥として畏れをいたさせたため、災いが起こらないようにとの配慮であつたろう。他にも、人との関わりとして星（1981）は西表島の民話として「クイナ鳥」と「カラスとゴッカル」の2題を採録し、クイナ（オオクイナ）やカラス、ゴッカル（アカショウビン）は人との関わりがみられる。

なお、他の人の関わりとして、表3に示したように、今回の採録を含め、これまでに西表島とその周辺離島で記録されている鳥類の方言名は総称を含み総数が53個となり、県内で記録されている方言名では一地域で最も多い数になるものと思われる。さらにこの種数はこれまでに西表島で記録されている鳥類の約17%に当たり、この中で留鳥として生息する種が25種、渡り鳥と考えられる種が27種識別され、それっぽ半数を占めた。

和名	黒島 (1972)	八重山野鳥の会 (1983) 稽納	新城 (パナリ) 島	相納・星立 (西表島)	古見 (西表島)	鳩間島
スズメ	ビヨウマ	ビヨマ	ミシユドウマ	カーラヤヌグーグアン	カーラヤヌトウラマ	リツバマ
ヒヨドリ	ニンゴチビルリヤマ	ニンゴチビルリヤマ	ノドブスケ	ビヨマ	ビイヤー	ツオイダ
ウダイス	バチカイ	バチカイ	ハヂカイ	マクスタ	イツフクラマ・パチカイ・プロウクイタ	
メジロ				ミルクア	ミインイシャーン	ミシユトウル
キジハト	ハトナ	ハトウコンザー	マミバト	ヤマバトウ	ハトウグサ	
キジハト (鳴き声)			ストウドウカーダーク			
ズアカアオバト	コックカラマ	エッカラロマ	アウバハウ	アウバトウ		ペーカベー
キンバト	チバト		ヤマバト	ギンバト	キンバトウ	キンバトウ
ハト金鶏			ハトウナ	ハトウ	ハトグサ	
カラスバト	ユウノウ	ユーノオ				
シジュウカラ	イツフクラマ	イツフクラマ	ゲーフケ	チヨンチヨン	チンチン	
セッカ			ウジラ	ウジラ		ウザ
ミツウズラ			ツコウ	チコホー	チククル	チクグル
コノハズク			コノハズク	マユツクホウ	マヤチコ	マヤスククル
コノハズク (鳴き声)						
アオハグク	ユシビテコウ	ユシビテコ				
オオコノハズク	マヤチコウ					
イソヒヨドリ	イシビヨウマ	イシビヨーマ				
ムシクイ類		ノギカイ				
アカヒゲ?						
シロハラ	アハブリ	ブックマ	フシュル			
アカハラ	シスブリ		ブックタ			
ツグミ			ブックアン			
ツグミ類の総称	ツツマ	カーラヤヌブフニヤマ				
セキレイ類		カーラヤヌブフニヤマ				
キセキレイ			チピフヤーン			
ツバメ			マタブルシャーン			
サンコサチヨウ	ガラシヌマーブ	ガラシヌマーブ				
アカシヨウカビン	ゴツカラマ	ゴツカラマ・コカラ	ゴツカル・ゴツカラアーン	ゴツカル	ゴツカロ	
カワセミ	ミナトゴツカル	ミナトゴツカル				
サギ類	ササ					
シラサギ類	シルサヤ	サン	シルサヤ	シスザイ		
ムラサキサギ	サヤ		サヤ	ガーナ		
ズグロミジゴイ		ユウノウ				

表3. 西表島およびその周辺離島における鳥類方言の比較

和名	黒島 (1972)	八重山野鳥の会 (1983) 相納	新城 (パナリ) 島	祖納・星立 (西表島)	古見 (西表島)	鳩間島
リュウキュウヨシゴイ	スンキ		スンキ			
アマサギ	アカカラジヤ		ガトウリヤ	ガトウリヤ	ガードウル	
カモ類	カートウリヤ		カートウリヤ	カートウリヤ	ガードウル	
中型のカモ?			ユナマ	アガードウリヤ	ウブガトウリヤ	
ガン				クビラ	コビス	クビラ
バン (ケイナ) の仲間	クビス		コビス	ターケビラ	コビス	ターケビラ
オオノハ?	ピヨウマガトリヤ			ヌーベルビラ	アツタコビス	
オオクイナ			ヤンクイラ	ファードウル	ファードウ・ヤンクイラ	ファードウル
シロハラクイナ				ハラジロコビス		
ミサゴ	タイドウ		ダイドオ	タイドウシユ		
ガムムリワシ	マヤダ		マヤダ	ヤマヒジマー	タカ	タカ
サシバ	タカ			タ一	タカ	
トビ				ビーフサー		
チヨウゲンボウ			ベニサー	ベニサー	ビヤンサー	
ネズミを獲るタカ				ウヤンチユトウリヤー	オイザートウリヤー	
ウ類	アトウク		アトク	サン	アタグ	
クロサギ						
ゴイサギ	ヨーラシ		ヨーラシ	ヨーラシ	ユーガフサー	ユーガフサー
トラツグミ			アヤブリ		アヤブリ	
カツオドリ	シサチヌ		シサチヌ		シサチヌ	
セグロアシサシ	バンダ		バンダ	バンダーン		ガットリ一
クロアシサシ	ナニワングラシ		イシバシダ	ナニワングラシ		
カモメ類	シカブ					
オオミズナギドリ			アナチロー	アナチロー		
アシナシ類						
仲の袖島の海鳥類	ナニワングラ			ナニワングラ		
アホウドリ	ウブドリヤ			ウブドウリヤー		
チドリ類				チドウリヤー		
オサソシブトガラス	ガラシ			ガラシ		ガラサ
鶴の卵				トウノ		トウルヌコーマ
不明						
合計52個	37個	35個	28個	47個	17個	23個

(4) 爬虫類

これまで西表島からセマルハコガメやサキシマハブ、キシノウエトカゲ、サキシマスジオなどの陸上に生息する22種（池原他、1984）の他に、ウミガメ類3種を加えると25種の生息が知られている。

爬虫類では13種についての方言名が得られた。この中で生活に深い関わりのある種としては「ヤマミー（セマルハコガメ）」で、カマイ（イノシシ）獵ではこのカメに出会うと縁起が悪いとされ、遭遇した地点からいったん山道の入り口まで引き返して、出直すという風習が見られる。

サキシマハブについては、咬まれないためのまじないとして、道ばたのクロツグの葉を取り、一方を縛ってこれを揺らしながら、「ユラ、ユラ、パープ、ユラ、ユラ、パープ」と唱えながら歩くことで咬傷が避けられると言い伝えられている。

サキシマスジオは大型のヘビで3mくらいにもなり、肉の量もハブより多いため好んで食用にされたという。なお、本地域では国指定天然記念物で大型のキシノウエトカゲが海岸林で生息している。宮古諸島では本種は食用にされることがあったが、本地域では食用とされていない。

(5) 両生類

西表島にはハラブチガエル、ヤエヤマアオガエル、オオハナサキガエル、コガタハナサキガエルなど7種が生息しているが、カエル類の総称的な呼称として「アタウ」、「アブタア」、「アウダー」の方言名が得られた。また、ヤエヤマアオガエルは「ナタドウリアブター」と呼ばれ、稻の種子をまきはじめる頃に鳴きだすことからこう呼ばれる。一部は食用とされていたものと思われるが、その詳細については聞き取りできなかった。

(6) 魚類

汽水域や淡水に生息する魚類は、西表島エコツーリズム協会編（1994）によるとオオウナギやオオクチュゴイ、タナゴモドキなど15種が知られているが、今回方言名としては不明種を含め4種採録された。海産魚類は含まれていないが、魚類は古来より重要な食糧源としての利用があり、特に海産魚類については伝統的な巻き網漁として、沖合からリーフ内に入ってきた魚の群を網で囲んで捕獲する「ウブアン」あるいは「マキアン」や、満潮時に魚が入り江に入ったところを仕切って、干潮時に閉じこめて捕獲する「プサン」などの漁法があった。また、冬場の大潮ではタイマツ（今日では電灯）を持って、ピニー やイノーに出かけ、魚類やタコ、貝類を捕獲する「イザリ」での捕獲も行われた。

今回の方言名収集は、人間生活との関わりの深い、陸上生物や河川、河口近くの汽水域

で生息する生物に限定したことから、その方言名は少数にとどまっている。したがって海産する生物種についての方言名収集は今後の課題であろう。

(7) 昆虫類・土壤動物類・クモ類・その他の小動物

西表島を含む八重山諸島からは渡辺（1979）によるとトンボ類53種、チョウ類97種（内迷蝶45種）が知られ、その他に土壤動物として大嶺（1984）の報告では唇脚網・（ムカデ類）32種、倍脚網（ヤスデ類）21種、池原ら（1985）ではクモ類が119種が知られている。

今回採録できた方言名はわずか9種であり、今後ともに調査し、採録する必要性がある。

(8) 甲殻類

汽水域から陸上に生息する甲殻類は、西表島エコツーリズム協会編（1994）によるとウシエビ、ミナミテナガエビ、オニヌマエビ、ノコギリガサミなど39種が知られている。今回方言名としてはその中で16種（総称含む）採録された。

甲殻類は古来重要な食糧源としての利用があり、人との関わりも深い。西表島でもテナガエビ類やガサミ類などは食用として捕獲され、食用に供されている。しがたって、このことを反映して、大型のカニ類やテナガエビ類などに種ごとに方言名が知られている。

特に「ガサン（ノコギリガサミ）」や「チンガニ（モクズガニ）」は重要な食料として識別され呼称されている。また、「ヤクジャーマ節」には、干渴に生息するシオマネキ類が歌われ、それぞれのユーモラスな生態が描写されている。

(9) 貝類

西表島の陸上に生息する貝類は、池原ら（1985）によると20科49種が生息しているとされる。一方、汽水域も含め海産する貝類についての種数は、未だその総数については把握されていないように思える。

今回採録された貝類の方言名は9種で、海産する種類や汽水域・マングローブ林に生息する貝類の「キゾ（シレナシジミ）」も含まれているが、陸産貝類では大型のマイマイ類やノッチにすむアマオブネ類、海産のクモガイ類などを中心に食用として利用されるものが多い。今回の調査ではこのことを反映して、食用となる貝類に方言名が付けられ識別されている。やはり、食糧資源のひとつとしての認識していたことが伺える。

宮城（1972）は、八重山地方の食用とされる貝類を39種記録していることから、今回の調査は不十分と思われる。

<謝辞>

本報告を行うにあたり、方言名の調査に協力していただいた富里サカイ氏（古見在住）、民俗研究家の海津ゆりえ氏（東京都在住）、西大舛高壱氏（西表島大原在住）、花城広助氏（名護市宇茂佐在住）、パナリ島の歴史に関する情報をいただいた竹富町史編さん室の通事孝作氏に厚く感謝申し上げる。また、野鳥情報の提供をいただいた西表中学校の庄山守氏、西表野生生物保護センターの阪口法明氏、伊谷玄氏、松本千枝子氏、我孫子市鳥の博物館の時田賢一氏、船浮中学校の奥戸晴夫氏の各氏に感謝申し上げます。

<引用文献>

- 天野鉄夫 1975. 沖縄県有用樹木要覧. 沖縄県緑化推進委員会.
- 天野鉄夫 1979. 琉球列島植物方言集. 新星図書. 301pp.
- 天野鉄夫 1980. 沖縄西部離島主要御嶽の植物方言名. 沖縄県社寺・御嶽林調査報告III. 399-432. 沖縄県教育委員会.
- 天野鉄夫 1981. 先島諸島の主要な御嶽の植物方言名. 沖縄県社寺・御嶽林調査報告VI. 283-316. 沖縄県教育委員会.
- 星 獻 1981. 西表島の民俗. 友古堂書店. 282pp.
- 本田安次 1962. 南島探訪記. 明善堂書店. 433pp.
- いらぶの自然編集委員会編 1991. いらぶの自然（動物編）. 伊良部町. 290pp.
- 池原貞雄・知念盛俊・下謝名松栄・与那城義春・千木良芳範・島村賢正・日越国昭 1985. 動物. 西表島天然記念物緊急調査報告書I. 沖縄県教育委員会. 88pp.
- 池原貞雄・与那城義春・宮城邦治・当山昌直 1984. 陸の脊椎動物, 琉球列島動物図鑑I. 新星図書出版. 351pp.
- Kuroda Nagamich 1923. A contribution to the knowledge of the Avifauna of the Riukiu Islands and the vicinity. published by Author. 293pp.
- 黒岩 恒 1983. 琉陽雜譚. 動物学雑誌第51号.
- 黒島寛松 1972. 野鳥の西表名. 鳥10号. 52-53. 沖縄鳥類保護協会.
- 久野 真 1988. 西表島祖納方言の音韻体系. 琉球の方言. 72-105. 法政大学沖縄文化研究所.
- 川路則友・樋口広芳 1989. アカヒゲ*Eriothacus komadori* の分布ならびに亜種の問題について. 昭和63年特殊鳥類生息調査. 環境庁. 71-88.
- 加治工真市 1990. 鳩間方言の住関係語彙. 琉球の方言. 51-106. 法政大学沖縄文化研究所.
- 加治工真市 1997. 琉球竹富方言の基礎語彙, 分野2, 動物. 琉球の方言. 136-148. 法

政大学沖縄文化研究所.

- 西表島エコツーリズム協会編 1994. ヤマナ・カラ・スナ・ピトウ, (ヤマ・カワ・ウミ・ヒト) 西表エコツーリズム・ガイドブック. 自然環境研究センター. 111pp.
- 環境庁編 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生動物. 340pp. 自然環境研究センター.
- 宮城 文 1972. 八重山生活誌. 城野印刷. 702pp.
- 名護博物館編 1990. 名護・やんばるの野鳥 (企画展図録). 名護博物館.
- 大嶺哲雄 1984. 琉球列島の多足類. 沖縄の生物. 日本生物教育会沖縄大会321-335.
- 沖縄大百科刊行事務局編 1983. 沖縄大百科事典上巻. 沖縄タイムス社. 1014pp.
- 沖縄大百科刊行事務局編 1983. 沖縄大百科事典下巻. 沖縄タイムス社. 1010pp.
- 沖縄野鳥研究会編 1986. 沖縄県の野鳥. 沖縄野鳥研究会.
- 沖縄野鳥研究会編 1993. 改訂沖縄県の野鳥. 沖縄出版.
- 大嶺哲雄 1985. 土壤動物. 西表島天然記念物緊急調査報告書III. 沖縄県教育委員会. 88pp.
- 尚 景 1918. 琉球産鳥類の方言. 鳥 (日本鳥学会誌) 2: 58-60.
- 庄山守 1984. 西表島の鳥類 動物と自然. 14(3) 22-27.
- 田代安定 (1889). マックハングノ説. 動物学雑誌14号.
- 当山昌直・久貝勝盛・島尻澤雄 1980. 宮古群島の両生爬虫類に関する方言. 沖生教研会誌, 13:17-32.
- 当山昌直 1983. 阿嘉島の動物の方言名について. 県立博物館総合調査報告書III—座間味村 (ざまみそん) 一, pp. 23-29. 沖縄県立博物館.
- 当山昌直 1984. 浜比嘉島の動物方言. やちむん, 8: 53-61.
- 当山昌直 1987. 伊計島の動物方言. 県立博物館総合調査報告書IV—伊計島 (いけいじま) 一, p. 35-43. 沖縄県立博物館.
- 当山昌直 1989. 佐敷町の動物の方言. 佐敷町誌, (3 自然), p. 403-451. 佐敷町.
- 当山昌直・国吉朝子・神谷保江・翁長丈子 1997. 南風原町の動植物の方言. 南風原町史 (第2巻 自然・地理編). p. 645-796. 南風原町.
- 玉城常雄 1979. 八重山の野鳥. 特別展八重山の自然, 25-32. 石垣市立八重山博物館.
- 嵩原建二・島村修・加治工真市 1998. 波照間島で記録された鳥類とその方言名について. 波照間島総合調査報告書. 65-86. 沖縄県立博物館.
- 嵩原建二・池長裕史・金城道男・渡久地豊・金城輝男・庄山守 2000. 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された鳥類の記録について. 沖縄県立博物館紀要第26号. 沖縄県立博物館
- 内田照章 1964. 琉球八重山群島西表島鼠相の特殊性 (予報). 八重山群島学術調査報告

- 第2集. 九州大学海外学術調査委員会学術報告第2号. 75-91. 九州大学.
- 安間繁樹 1976. 原生林の間に生きる野生のイリオモテヤマネコ, 日本の野生動物 6 . 汐文社. 286pp.
- 安間繁樹 1979. 八重山諸島の哺乳類. 特別展八重山の自然, p.33-39. 石垣市立八重山博物館.
- 安間繁樹 1986. マヤランド西表島III. 野外に出ようその2. 新星図書出版.
- 安間繁樹 1990. 西表島の自然誌、幻のオオヤマネコを求めて、晶文社.
- 山田雪子(述) 1992. 西表島に生きる、おばあちゃんの自然生活史. 安渥貴子・安渥遊也編. ひるぎ社. 211pp.
- 渡辺賢一 1979. 八重山諸島のトンボ・チョウ類. 特別展八重山の自然, 石垣市立八重山博物館.
- 八重山野鳥の会編 1983. 八重山諸島の鳥類目録. p.28-38. 10周年記念誌. 八重山野鳥の会.

分類	種名	新城島	鷲間島	祖納	音声表記	古見	備考(食用・毒・用途・用途・留鳥・渡り鳥等)
植物	植物						
植物	オオタニワトリ	フツンヌフク	アキシブキ	フチビ	フクンヌフク、サラムシロ	食	
植物	リュウキュウマツ	マヂ、マヂキ	マヂ、マヂキ	mati[ti] mati[ki]	マツ	くり丸材に利用	
植物	ヒカゲヘゴ	ハラビ	ワラビ	ハラビ	baRaBi		食
植物	モクマオウ	モクモウ	モクモウ	モクモウ	moKuMoU	mokuMoU	外来
植物	ヤマモモ	ムン、ヤマムン	ムン、ヤマムン	ムン、ヤマムン	[mu]mu [mu]mu	ムン	食
植物	イヌビワ	カブローキ	ハブキ	カブリキ	kaburi kaburi ki	カブラー、カブラーギ	
植物	ギランイヌビワ	ヤマカブリ	カブリ	jamakabuRi			
植物	フクギ	ボンキ	フクネ	フカイキ	fuKaikI	フクンギ	建材・燃料
植物	シャリンバイ	トイツイキ	トウカチキ	tukatj[ti]ki	トウカジ		燃料
植物	モタマ	トルカロー	キンカザ	キカツア	ki:kat TsA		
植物	デイゴ	シホキ	グズキ	ズーキ	fizur ki	ズジ	木建材・毒性
植物	セイシカ	ヤマザクラ	ヤマザクラ	ミキ	mi Ki	ウツツツジン	
植物	サキシマツツジン	キガゾ	ツツジ	キガゾ	kiGa zo	ツツ	
植物	ツツキ	ツツキ	ツツキ	ツツキ	tji:pakj	カタシ	
植物	グンバヒルガオ	ハマカラツシア	ハマカラツシア	ハマカラツシア	p'apakat'ssA	ハマカラナ、ハマカラズ	
植物	タブノキ	タブキ	タブキ	タブキ	tabuki, ko: gaKi	コガ、コガキ	繊香の原料
植物	タケ(金殿)	タイ	タキ	タキ	tak i	タキ(竹の子=タキヌフキ)	食
植物	苦い竹(ホウライチク)竹	ンガタケ	ンガタケ	ンガタケ	ngataki	ンガタキ	食
植物	カンボイチク	ダイミョウタヒ	ダイム	ダイム	dai mu	ダイミヨウタキ	食
植物	鉢葉用竹(ホライチク)	マーダヒ	シブリタキ	シブリタキ	shibiri taKi	シブリタキ	食
植物	コタイサンチク	マトウク	マトウク	マトウク	mat'ku	マトウキ	食
植物	リュウキュウサチク	スヌルダヒ	ユチカラキ	シヌル	jino fu	ヌヌル	食
植物	ゴボウダクサ	ヤマンダヒ	ヤマンダヒ	ヤマンダヒ	Jamandai	クサンダキ	屋根のユオリ
植物	タイミンチク	ウシタヒ	ウシタヒ	ウシタヒ	Tuij[ti]tai		
植物	ヤダケ	コチレ	ヤダキ	ヤダキ	dada:kI		
植物	ダニチク		ダード	ダード	da:dor		
植物	トリハシク		ヤラブ	ヤラブ	jara:du	ヤラブ	有用材・実は食
植物	ヤエヤマハゼ		ヤシ	ヤシ	bin do:		
植物	クバ		クバ	クバ	ku ba		浦内のみ自生
植物	サキシマヌサウノキ		ダイミョウタキ	ダイミョウタキ	dai'mio:taKi	ダイヌキ	魔よけ・ジッチャーン
植物	アグン	アグン	アグン	アグン	Agun	アグス	有用・実は食・薬の利用
植物	メヌアグン	ミーアグン	ミーアグン	ミーアグン	mi:agun	ミーアグン	
植物	オヌアグン	ビピアグン	ビピアグン	ビピアグン	bi:pia gun	ka:pia gun	
植物	銀のようないアグン		ガニアグン	ガニアグン	gaNia gun	アグナス	鐵絲利用
植物	アグンの氣根		アグナス	アグナス	aGna s	ビンギヤマ	烟
植物	マンクローフ		カニキヤ	カニキヤ	puTiki:j	ビンギ	染料・建材
植物	ヒルギ(穂軸)	アヌイキ	アヌイキ	アヌイキ	puTik'i		

表1 西表島動植物方言名(方言は石垣・花城採集/音声表記は加治工)

分類	種名	新城島	鳩間島	相約	音声表記	古見	備考(食用・毒・用途・用途・留鳥・渡り鳥等)
植物	メヒルギ	ビヒーブスギキ	ビキナギ	ヒーブシキ	bi:pu:fiki	ビギバンギ	
植物	オヒルギ	ミープスイキ	ミープイキ	ミープシキ	[mi:pju:k'i]	ミーピンギ	染料・建材
植物	ヤエマヒルギ			マツアブシキ	ma:tša:pu:ški	マヤビンギ	染料・建材
植物	ヤエマヒルギ			マツアブシキ	ma:tša:pu:ški	マヤビンギ	染料・建材
植物	ソテツ			シトウチ	šit'utči	シトウチ	食・毒
植物	サガリバナ			ジルカキ	džirukak'i	サラカキ	食は食・
植物	オキナワキヨウチクトウ			ミーフクラキ	mi:ʃkla:k'i	ミーフクラキ	毒
植物	センダン			シンダンキ	sindan:k'i	センダン	建材・家具材
植物	ガジュマル			ガチバナ	ga:tšaban	ガツバニ	防風林
植物	クチナシ			ヤマフチマ	jama:fu:tšima		染料・葉は利用
植物	イトバショウ			イトバサ-タニバサ-	t'qñiba:sä:	タニバサ-	繊維・芭蕉布
植物	クリサイモ			ビロサ	ka:sanu:pa	ビールサ-ヌバ-	毒・葉は利用
植物	クリサイモの雄、熱帯系			ビキリヌバ	bik'li:sanu:pa	ガツバニ	毒・葉は利用
植物	クリサイモの雌、熱帯系			ミガサヌバ	mik'q:sanu:pa		毒・葉は利用
植物	シメモノイモ			ケール	mö:ru	ケール	葉料・葉用
植物	イネ(稻)			イニ	ïni:ñai	イニ、マイ	食
植物	コメ(米)			マイ	ma:i	マイ	食
植物	クサトベラ			ミガカギ	üjip'q:kä:k'i		紙代用
植物	モンバノキ			ガンキヨウキ	gaj'kjo:k'i		水中めがね・葉用
植物	クロツゲ			マニ	ma:n'i	マニ	食・繊維
植物	オキナワラジロガシ			カシキ	ka:tški	カスンギ	舟材・薪
植物	タの実			アデインガ	ədinq'a	アディンガ	食・かん具
植物	イタジイ			シンギ	jí:ki	シイーキ	舟材・薪
植物	イタジイの実			シイースミ	phi:gu	シイースミ	食・
植物	ツルアタン			アダンブ	jantšanti;jantšatu	ヤマアダン	食
植物	フトモモ			フドウ	ɸudwɔ:	フート-	食
植物	グミ			フッピー	ɸup'pi	クビ	食
植物	ホルトノキ			マツマヤ	ma:tsumaya	スサズ	食
植物	ヤマヒバツ			ヤントウフチビヤ~	jantu:phi:bi:ʃi:ja:	ヤマクビ	食
植物	ハスノハギ			ビヤロマヤ	bi:ylo:ma:y		毒・木彫
植物	イリオモテアザミ			トウカナチキ、アーフーキ	tu:kñat'k'ha:tški	ビビキ	
植物	ハマオモト			ハマグンボウ	hamagun:bou:	ハマタングボ-	食
植物	マツマヤ			サタフカ	šat'ufka	サタイフカ	乗用・薬用
植物	マルヤマシユカイドウ			スン	ſu:n	なし	食・毒消し・葉用
植物	コウトウシユカイドウ			ビースン(毒)	bis:un		毒
植物	ゲットウ			サニ	ſa:n	サンニ	染料・繊維・防虫
植物	ボタンボタフカ			サクナ	sakuna	サクナ	葉用・
植物	チガヤ			ガヤ	gaja	ガヤ	屋根・駕籠
植物	ススキ			ユシギ	yuf'ki	ユシギ	ほうき・
植物	オオハマボウ			ユナギ	yu:n'a	ユーナ	灰利用・防風林

分類	種名	新城島	鳴門島	祖納	音声表記	古見	備考(食用・毒・用途・用途・留鳥・渡り鳥等)
植物	モクタチバナ			アブチア~	2abu[ti]ā		実は食
植物	アカギ			アカンギ	akāgi		船材・建材
植物	タイワニンソウクサギ			パビルキ	pabiruki		建材
植物	ハマゴケ			フサキ	fu'saki		蚊よけ
植物	モモタマナ			クリデリサ	クリデリサ	kubadif'sa:	
植物	クロガネモチ			ムジキ	mudziki	mudziki	鳥もち
植物	イヌマキ			キヤンギ	kiyan'gi	kiyan'gi	建材
植物	ダイワンオガタマノキ			ドウスヌ	dousu'mu	dousu'mu	建材
植物	モッコク			イノキ	i'no'ki	i'no'ki	イシュキ(ビキイシュ赤、ミーイシュ白)
植物	クワ(桑)			コーナギ	ko'nagi	ko'nagi	クワーキ
植物	パパイヤ			マンジュマイ	manju'mai	manju'mai	食・果実
植物	実芭蕉(バナナ)			スマートナ	ba'sa	ba'sa	食・果実
植物	バナナの実(果物)			バサナル	ba'san'ru	ba'san'ru	食・果実
植物	ミカン			バサヌシツ	ba'san'sitsu	ba'san'sitsu	食・果実
植物	ヒラミレモン(シイクアーサー)			フナブ	funa'b	funa'b	食・果実
植物	パンジロー(ダーバー)			フナブ	funa'b	ku'ngga'mia:	食・果実
植物	トウガラ			パンズル	pan'szu	pan'szu	パンズレ
植物	ヒヨウタン			シブリ	shiburi	jipuri	シブリ
植物	ダイコン			チブル	chi'bu	tjipuru	チブル
植物	ラッキョウ			ダイクニ	daikuni	daikuni	ダイクニ
植物	ヘチマ			ラッキョウ	la'kkyo	la'kkyo	ラッキョウ
植物	ニガウリ			ナベーラ	nabe'ra	nabe'ra	ナベーラ
植物	ニンジン			ゴーヤー	go'ya	go'ya	食・栽培
植物	コボウ			ゴーヤー	go'ya	kindai'st'i	食・栽培
植物	サトウキビ			キンダクニ	kin'daku	kin'daku	キンダクニ
植物	スイカ			ダンボリ	dan'bo	gum'bo	ダンボリ
植物	ニンニク			ダンボリ	dan'bo	gum'bo	ダンボリ
植物	カボチャ			シンザー	sin'za	kittsa	スンザー
植物	サツマイモ			スイカ	ya'matouke'ru	jama'ugurija:	スイカ
植物	ヤマイモ			ピル	pir	p'ru	ピル
植物	ホウズキ			カブチ	ka'buchi	ka'buchi	カブチ
植物	ノカシナウ			ウム	um	um	アコン
植物	ツルソバ			ヤマツ	yam'	katt'sa:nmu	ウン(コーンチャム、ボーンム)
植物	アカメガシワ			ホツカ	hot'ka	gorū'bjā:	食・野生果実
植物	シマミサノノキ			クルビヤ~	kurubijā		
植物	タイワニンリミノキ			パンジー	pan'si		パンジー
植物	シマヤマヒハツ			スンバン	sun'ban	sum'pa	食・薬草
植物	トウヅルモドキ			キブシキ	ki'bushiki	ki'bushiki	薬料
植物	オオバキ			ダスカ	daska	daska	ダスカ
				カンドジカ	kandjika	kandjika	建材・靈力
				フクイキ	fu'ku'iki	fu'ku'iki	
				カサイン	ka'sain	ka'sain	

分類	種名	新城島	鳴門島	祖納	音声表記	古見	備考(食用・毒・用途・用途・留鳥・渡り鳥等)
植物	アコウ		ウシキ				
植物	トウガラシ		クース	クース	kuːs	クース	食・栽培
植物	山ミカン?			ヤマフノ-	jamafuːno	アオサミカン	
植物	リュウキユウガキ			ガ-キ	gaːki		毒
植物	タワノハエノキ			ナ-リヤンキ	naːriyan̩ki		美・食
植物	不明			クビ-	guːbit		ゴザ
植物	不明			イト-ナ-	itɔːnə		
植物	不明			ナイフサ	naɪ̩f̩sa		
植物	不明			センコーフサ	senkɔːf̩sa		
植物	不明			ピカラニギ	pikaraniɡi	ビインギヤ-	
植物	不明(オイシバ?)			ガトウアヌハイフサ	gatūwānuhaiɸsa		
植物	ハイキビ	ヌヰキ	ノヰシ	nōdzaʃi	nōdzaʃi	ノヰシ	
植物	ヒエ	ビ-	ビ-	piː	piː		
植物	不明(オオアブラガヤ?)		カンズリフサ	kanzurif̩sa	kanzurif̩sa		
植物	オイシバ	ノボタン	ノハイフサ	n̩daiɸsa	n̩daiɸsa	ノハイ (ノハイムトウ)	
植物	エゴノキ		マラバパンカ	marabapŋka	marabapŋka		薬料
植物	シマトネリコ		シタンキ	kubāmalki	kubāmalki		カマイバナの人形
植物	(麻) チヨマ・カラムシ		クハナキ	buːŋi	buːŋi		舟の滑車
植物	リュウキユウアイ	ア-	ア-	jinaːŋai	jinaːŋai	ト-アイ	織維・
植物	オキナワサルトリイバラ	ヤマクル	マヤ-モール(久米島のケール)	maʃaːmoi	maʃaːmoi		染料
植物	サンキライ類		サンキラ	sauk̩j̩ra	sauk̩j̩ra		葉利用
植物	アカハナノキ		ヤマヌバンキ	jamanuβan̩ki	jamanuβan̩ki	ヤマヌハニキ	
植物	ナシカズラ		カシナズ(キーウイの野生種)	kajinadzu	kajinadzu	ウブズ	食・
植物	トウアズキ		アハダン	rahād̩an̩	rahād̩an̩		装飾用
植物	アズキ		アカマミ	rahāmami	rahāmami		食
植物	コ-ヒーノキ		ケーマ	keːma	keːma		食
植物	インドアイ(ナンバンコマツナギ)		カビキ	rahāk̩i	rahāk̩i		染料
植物	オガンビ		カビキ	rahāk̩i	rahāk̩i		紙子き
植物	ブッソウゲ(仏桑花)		グソ-ケ	guːsɔːk̩e	guːsɔːk̩e	グスクヌハナ	葉液はリソス
植物	コモモ		タモ	rahāmo	rahāmo		食
植物	リュウキユウコクタン		キダ	rahāk̩i	rahāk̩i	キダキ	実は食・心材は三線
植物	シイノキスマ		キダキ	rahāk̩i	rahāk̩i		アリヨイ大齧つくり
植物	タイワシングズ		シユウカツツア	rahāk̩i	rahāk̩i	ケーナカツツア	野生・飼代用で利用
植物	クマタケラン		タモ	rahāmo	rahāmo		茎はヤマイギの毒消し
植物	シマクワズイモ			rahāmo	rahāmo		葉を利用
植物	イバネイモ		セイバンウム	rahāmo	rahāmo	セイバンウム	食・台灣から
植物	ハヌイモ		カサムチ	rahāmo	rahāmo		茎は食
植物	ツワブキ			rahāmo	rahāmo		

分類	種名	新城島	鳴門島	祖納	音声表記	古見	備考(食用・毒・用途・用途・留鳥・渡り鳥等)
植物	ミズイモ			ターカム	tar̥t̥mu		食・栽培・田んぼ
植物	不明			パーム	pai̥mu		食・栽培・田んぼ
植物	ジャケツイバナ(シロップ)			マヤフス	majaフス		※山猫の糞の意味
植物	アワ	ア-	ア-				
植物	モチキビ		キン	キム			
植物	ムギ		ムン	ムン			
植物	ナンゴンワセオバナ		スイ		̑su̥i		
植物	不明			マツテヌウジフサ	matteñuži̥f̥sa		※人の名前に由来
植物	ヤエヤマアオキ			なし※ブリシ(竹宮)			祖納／星立海岸になし
植物	リュウキユウヨモギ			ノーバイ	nor̥baɪ		ラン藻類・食用
植物	ネンジユモ			ジーパマル	dʒi̥p̥am̥ra	ジー・フクラー	
	165種						
動物	(哺乳類)						
哺乳類	リュウキユウイノシシ	ウムザ	カマイ	カマイ	k̥ḁm̥ai	カマイ	
哺乳類	イリオモテヤマネコ	ヤママユ	ヤママヤ	ヤママヤ	jamaṇaJa	ヤママヤー	
哺乳類	家ネコ		ヤースマヤ	マヤ	maʃ̥a	マヤー	
哺乳類	ノラネコ		ピンギマヤ	ピンギマヤ	pɪ̥n̥gi̥ma	ピンギマヤー	
哺乳類	オオヤマネコ?		ヤマビックリヤー	グンズマヤー	g̥un̥z̥ma	トウトウラー	生息状況不明
哺乳類	ヤエヤマオオコウモリ	カブル	カブレ	カブリ	ka'b̥ri	カブリ	
哺乳類	カグラコウモリ		イシヤーラ	カスリヤー	kaṣ̥rija	カサリラー	
哺乳類	キガシラコウモリ	イシヤーラ	カスリヤー	カスリヤー	kaṣ̥rija	カサリラー	
哺乳類	ネズミ	ウヤンチュー	オイザ-	2oldza	uyan̥t̥ju	ウヤンチュー	
哺乳類	イルカ		ヒトウ	çit̥u			
哺乳類	ジユゴン	ザヌ	ザン(ザ-)	dzař̥no	za	ザノ	
	11種						
動物	(鳥類)						
鳥類	サギ(シラサギ類)	サン	シルサヤ	Jirusat̥ja	siš̥saŋ̥i		
鳥類	ムラサキサギ		サヤ	saʃ̥a	ga-		
鳥類	ウ	サン	カードカリヤ	2atalgu	ga-		渡り鳥
鳥類	カモ		カードカリヤ	saʃ̥a	ガーナ		繁殖
鳥類	中型カモ?		ユナマ	saʃ̥a	ガトゥリヤ		渡り鳥
鳥類	コガモ		ヒヨーマ	saʃ̥a	ガトゥリヤ		繁殖
鳥類	ガシ		アタグ	saʃ̥a	ガトゥリヤ		渡り鳥
鳥類	カモ		カードカリヤ	saʃ̥a	ガトゥリヤ		渡り鳥
鳥類	中型ガモ?			saʃ̥a	ガトゥリヤ		渡り鳥
鳥類	コガモ		ヒヨーマ	saʃ̥a	ガトゥリヤ		渡り鳥
鳥類	ガシ		アタグ	saʃ̥a	ガトゥリヤ		渡り鳥
鳥類	ガシムリワシ	ヤマジヒナ	マヤダ	maʃ̥a	タカ		繁殖
鳥類	サシバ	ター	タカ	taʃ̥ka			渡り鳥
鳥類	ショウジョウボウ		ベニサ-	pen̥sa	ビヤンサ-		渡り鳥
鳥類	トリ	ビーフサー					渡鳥

分類	種名	新城島	鳴門島	相納	音声表記	古見		備考(食用・毒・用途・用途・留鳥・渡り鳥等)
鳥類	ネズミを捕る鳥	ウヤンカウタリヤー	オイマートウリヤー	oi'ma:t'uri:ja:				
鳥類	パンの仲間	クビラ	クビラ	ko'pisu	クビラ			繁殖
鳥類	バン	ターケビラ	ターケビラ	ko'pisu	クビラ			繁殖
鳥類	オオバン	スーケビラ	スーケビラ	2attakopisū	2attakopisū			繁殖
鳥類	オオクイナ	ファードゥル	ファードゥル	Φ:du:nijekuma	Φ:du:nijekuma			繁殖
鳥類	ヒクイナ			ウジラ	ウジラ			繁殖
鳥類	チドリ			チドリヤー	チドリヤー			渡り鳥
鳥類	ハト全般			バトウグサ	バトウグサ			繁殖
鳥類	リュウキュウキンバト	ヤマバト	ヤマバト	キンバト	[g]im'pātu	キンバト		繁殖
鳥類	キジバト	マミバト	マミバト	ヤマバト	[suijkɔ:]			繁殖
鳥類	キジバト	ストウジウツバゲー	ストウジウツバゲー	ペーかべー	ペーかべー			繁殖
鳥類	アオノバト	アウバトウ	アウバトウ	スンキ	[suŋki]			繁殖
鳥類	リュウキュウヨシゴイ			ブツタ～	ブツタ～			渡り鳥
鳥類	シロハラ、アカハラ			ブツタ～	ブツタ～			渡り鳥
鳥類	ツグミ			アヤブリ	Rajaburi			渡り鳥
鳥類	リュウキュウコノハズク	ツクホウミンツクグル	ツクホウミンツクグル	チコホー	tʃi'kohō	チクフル		繁殖
鳥類	リュウキュウコノハズク(巣き芦で)	マエツクホウ	マエツクホウ	マヤチクグル	ma:jat'ʃikō	マヤチクグル		繁殖
鳥類	リュウキュウアカショウビン	オッカロー、コカラ-	オッカロー、コカラ-	ゴツカロー	ga:tškau, go:kāni	コツカルー		渡り鳥
鳥類	ヒヨドリ	ノドブスケ	ノドブスケ	ピヨマ	p̪jɔ:mā	ピヤマ～		繁殖
鳥類	シジュウカラ	ミルクア～	ミルクア～	mi:tʃ'fai	ミシユトウル			繁殖
鳥類	メジロ			カーラヤヌトウラマ	kā:ra:yā:nus'tu:rlāmā			繁殖
鳥類	スズメ	ミシユドウマ	ミシユドウマ	イシビヨマ	ʔiʃibjɔ:mā			渡り鳥
鳥類	イソヒヨドリ							渡り鳥
鳥類	アカヒゲ?	フシユル	フシユル					繁殖
鳥類	ウグイス	マクスタ	マクスタ	イツフクマ、ハサカイ、アトウタイケイ	itsufukuma, ha:sa:ki			渡り鳥
鳥類	ツバメ	マテアラ	マテアラ	マタブルシヤ～	mataluburulā:			渡り鳥
鳥類	オサハシブトカラス	ガラス	ガラス	ガラサー	ga:ra:sā	ガラサー		繁殖
鳥類	ゴイサギ	ユーガラ	ユーガラ	ヨーラシ	jɔ:rəsi	ユーガラサー		繁殖
鳥類	ヒバリ? (セック)	ゲーフ	ゲーフ	チユンチユン	tʃuŋtʃi:ju:n			留鳥
鳥類	キセキレイ			チピフヤア～	tʃipifuya:			渡り鳥
鳥類	ズグロミンゴイ			エウノウ	jurno:w			繁殖
鳥類	ミサゴ			タイドウシユ	taidō:ʃu			渡り鳥・繁殖・ナニワ
鳥類	カツオドリ(幼)			ツサチヌ	tsatʃi:nū			渡り鳥・繁殖・ナニワ
鳥類	オオミズナギドリ			アナチコ～	anatʃikɔ:			渡り鳥・繁殖・ナニワ
鳥類	セグロアシサン			パンダ～	pan:dai			渡り鳥・繁殖・ナニワ
鳥類	エリグロアシサン			ナニワンガラ	na:n'wagala:			渡り鳥・繁殖・ナニワ
鳥類	仲の御嶽の海鳥の姫孫			ナニワンガラ	na:n'wagagu			渡り鳥・繁殖・ナニワ
鳥類	アホウドリ			ウブドウリヤ～	ubudouri:ʃa:			渡り鳥・繁殖・ナニワ

分類	種名	新城島	鳩間島	祖納	音声表記	古見	備考 (食用・毒・用途・用途・留鳥・渡り鳥等)
鳥類	シロハラクイナ			ハラジロコビス	haradžirokōbiši		繁殖・留鳥
鳥類	鶲の卵		コーマ	トゥノ		クマ	食
	53個						
動物	爬虫類						
爬虫類	セマツルハコガメ	ヤマメ	ヤマメ	ヤマミ	jamañi:	ヤムメー	繁殖・天然記念物
爬虫類	カメ一般		ヤマメ	ガミ	kä̃mi	カミ	繁殖
爬虫類	ミナミイシガメ				midžingařni	※いない	繁殖
爬虫類	海ガメ				kä̃mi		繁殖
爬虫類	ホオクロヤモリ	フタツメ	フタツメ	フタツミ	Φtadatjimi	フンダツク	繁殖
爬虫類	豪(ハ)ヤモリ	イエフタツミ	フタツメ	フタツミ	Φtadatjimi	フンダツク	繁殖
爬虫類	キノボリトガメ	ヤマフタツミ			kurusṭařar		繁殖
爬虫類	キシノウエトガメ	ヤマフタツミ			borňatči		繁殖
爬虫類	イシガキトガメ	イシニエニノゴーリ					繁殖
爬虫類	ヘビ (ヤエヤマヒバア?)	ガラスバオ	ガラスバオ	ガラシナバ	gařařijipabu		繁殖
爬虫類	ヘビ (サキシマアオヘビ?)	アオナズ					
爬虫類	サキシマスジオ	トウカラノオ	トウカラノオ	トウカラバア	t'ü̃karāpabu	タクラー	
爬虫類	不明	トウカラノオ	マーハブ	ハブ	pařbu	ハブ	
爬虫類	サキシマハブ	イハブ	イハブ				
爬虫類	ウミヘビ						海ヘビ (マーハブ)
	15個						
動物	(両生類)						
爬虫類	ヤエヤマオガエル	タナドウリアブラー					
爬虫類	カエル類	アウタ	アウタ	アブタ	?abutči	アウター	
	2個種						
動物	魚類						
魚類	トビハゼ			トントンミー		トントンミー	食
魚類	不明						
魚類	ツムギハゼ (毒)			ガラブタ		ガラブタ	食・漢の魚
魚類	不明			ゴナーベン	goňardzaj	ガラブタ	毒
	4個						
動物	昆蟲類						
昆蟲類	セミ全般	サンサン	サンサン	ガラビターン	gařaptař	サンサン	
昆蟲類	イワサキタサゼミ	ダンダミ	サンサン	ガヤゼミ	gařademi	サンサン	
昆蟲類	イワサキゼミ				mařdinu	マージヌ	
昆蟲類	チヨウ	カーピロ		パビル	pabíru	パビル	

分類	種名	新城島	船問島	祖納	音声表記	古見	備考(食用・毒・用途・用途・留鳥・渡り鳥等)
昆虫類	トンボ	カケズ一		アルチャーン／タンビサー	ʔar̚tʰuʃaːl tambiːsaː	テインナー	
昆虫類	カマキリ			アッバーサンティリヤ	ʔap̚pərəsan̚tiːrija		
昆虫類	ホタル			ピカラ一	pikala	ヒカラ	
昆虫類	タイワンカブトムシ幼虫			ブツタムシ／ミミジャーン	bʊt̚taːm̚siː/mimijāːn		
昆虫類	イワサキカレハの幼虫			ヤマクジミ (毒)	yaːmaːk̚dʒim̚ (tox)	ヤマンギ	
昆虫類	ゴキブリ			トーピラ	tɔːbiːla	クムシクレー、トーピラー	
昆虫類	ヤマビル (やま)			トーピラ	tɔːbiːla	ヤマビル	
昆虫類	ヒル (水田に生息する種)			ヤマビル	yaːmaːbil̚	ビル	
昆虫類	ムカデ	ムカデ	ムカデ	モーザー	p̚issoːzamup̚jɔː	mordza	ムガザー
13個							
動物							
甲殻類	テナガエビ	イエビル	イビル	カーライビ	kaːlraib̚i	サイトウガ一	
甲殻類	海のエビ類	イブズ、イビ	イビ	イーピ	iːpi	サイヤマ	
甲殻類	マンシローブ (エビ)			サイマー	saimaː	※いない	
甲殻類	ウシエビ			インツマイ	ɪn̚ts̚maɪ		
甲殻類	ヤドカリ (陸)	アマンビツア	アミチャ	アーマン、アーモ	ar̚m̚aŋ̚biːt̚s̚a ar̚m̚a	アーマン	
甲殻類	ヤドカリ (海)	アマガニ	アマガニ	アマガニ	ar̚m̚aŋ̚gaːni		
甲殻類	ヤシガニ	ムホン	ムホン	アコヤ	aːkoːja	モーヤン	
甲殻類	ノコギリガザミ	ガサメ	ガサメ	ガサン	gaːsaŋ̚	ガサミ	
甲殻類	ミナミベニツケガニ			ガタリヤー	gaːt̚aliːja	ノタリヤー・カソ	
甲殻類	シオマネキ類	カン	カン	サンシンガニ、カイマ(小)	sən̚s̚iŋ̚gaːni kaɪm̚a	ハサンガサミ	
甲殻類	ミナミコメツキガニ	バウガリヤー・カン、ヤツガカン		イニチキガイマ、ハイタイガニ	iːn̚it̚kiːgaɪma		
甲殻類	ギダーサカイ			ギサタカイ	giːsaːt̚kaɪ		
甲殻類	ヒルギハシリイワガニ			ピソヤン	p̚isoj̚a	オオンガヤー	
甲殻類	ツノメガニ			パガル	p̚aːg̚al	ビティンシカマ	
甲殻類	マンシローブのガニ			ミナトガザミ	miːn̚at̚gaːs̚a		
甲殻類	ケガニ (モクズガニ)			シミガニ	simiːgaːni	アシザイ	
16個							
動物							
貝類	貝類全般			ミナ	mina	ミナ	
貝類	タニシ (田)			ターミナ	taːm̚na	ターミナ	
貝類	ニシキアマオブネ	アマビタ	アマビタ	チキアンビタ	čikiːan̚biːta		
貝類	シナシジミ			キゾ	kido	ギジョク	
貝類	クモガイ			ヤダンブル	jad̚buːrl̚	jad̚ruːjl̚	
貝類	スイシガイ			ガドゥリヤー	gaðuːrl̚ja	graduːrl̚ja	
貝類	カタツムリ	シタミ	シタミ	キサン	kidaŋ̚	チンドミ	
貝類	カタツムリ (山地に生息)			ヤマキサン	jamakidz̚a	※いなみ	
9個							